

自我機能の発達と病態化の研究 (その1)

—自我機能の測定尺度の開発—

馬場 謙一^{*1)}・鈴木 朋子^{*2)}・竹内 理英^{*3)}

松本 京介^{*4)}・長谷川麻衣子^{*5)}

Development and pathological changes of ego-functions (1)

—In search of assessment-scale of ego-functions—

Kenichi BABA, Tomoko SUZUKI, Rie TAKEUCHI,

Kyosuke MATSUMOTO, Maiko HASEGAWA

Summary

The assessment of ego functions is important cues for grasping the level of psychopathology and prospecting the course of the disease in future. There are a few previous studies that aimed at objective measurement and assessment of ego functions and defense mechanisms which are the important part of ego functions, such as Bellak (1973), Nakanishi and Furuichi (1981) in Japan. But we thought that more useful subscales should be added in regard to the clinical situations in Japan, and it is necessary to assess not only the level of defense functioning but also the sort of defense mechanisms, so we attempted to develop a scale of ego functions.

In study I, for the purpose of making items of ego functions, we examined 141 students. By factor analysis, we got 8 factors. In study II, on the basis of this result, we added and adjusted items which presented ego functions and defense mechanisms, and we examined 243 students. As the result of another factor analysis, we got 7 factors; "reality testing and sense of reality", "object relation", "stimulus barrier", "judgement", "identity", "mastery and competence", "autonomous functions". Moreover in items which presented defense mechanisms, we got 4 factors; "primitive defense", "hysterical defense", "healthy defense", "defense centered on reaction formation".

*1) 放送大学教授 (発達と教育)

*2) 横浜国立大学大学院工学研究科

*3) 神奈川県立第二教育センター

*4) 東京学芸大学連合大学院教育学研究科

*5) 川崎市立病院

Hence, we aim at standardization of this scale, and we will continue our study from the view points of development and psychopathology.

要 旨

力動精神医学において、「自我」は人格の重要な構成基準であってさまざまな精神機能をつかさどる機関として考えられている。その自我機能の評価は、病態を把握し、治療の見通しを立てる上で、重要な手がかりとなるものである。よって、これまでも多くの研究者たちがロールシャッハ・テストなどの投影法、質問紙、面接などを用いて、自我機能の評価・測定する方法をさまざまに提案してきた。その中でも特に中心的な研究は、Bellak, L. (1969, 1973) のものである。Bellakは自我機能を12に分類し、臨床的面接、実験的手続き、既成の心理研究という3つの手続きによって詳細な自我機能の評価を試み、精神分裂病患者、神経症患者、正常者の比較研究を行った。このBellakの臨床的面接の質問項目を質問紙形式で取り入れ、正常から境界例に至る一般の中・高生の自我機能の評定と再適応の能力の評価を行い、指導や治療の指針を得ることを目的にして作成されたのが、中西・古市 (1981) のEF 1-2である。EF 1-2は信頼性・妥当性について検討がなされ、標準化が行われているにもかかわらず、臨床の現場では未だ普及に至っていないのが現状である。そこで、自我機能の測定尺度について、われわれはまず以下のような問題点と今後の課題を検討した。

一つには、EF 1-2はBellakの自我機能の枠組みに沿って作成されているが、そもそもBellakの枠組みをそのまま日本に適用することには無理があるのではなからうか。むしろ、日本での臨床的な経験を踏まえて、自我機能の測定尺度を作成する必要があるのではないか。すなわち、Bellakの分類にこだわらず、例えば、「同一性」のような病態の把握にとって重要と考えられる下位尺度を盛り込む方が有用である。

また、Bellak、中西・古市、いずれの研究においても、自我機能の1下位分類である防衛機制についてはその全般的な機能水準を問題としており、個々の防衛機制の種類は捉えられていない。個々の防衛機制を測定する質問紙も別に考案されているが (DSQ: Bond, Gardner, Christian & Sigal 1983, Bond 1986, 中西 1998)、他の自我機能と共に検討されていない。個々の防衛機制のあり方と自我機能との関連を同時に調べることがきわめて重要であると考えられるので、「防衛機制」についてはその種類も取り上げ、より詳細な項目で構成されるべきであろう。

以上の点を踏まえて、本研究は、新たな自我機能の測定尺度を作成することを試みるものである。また、今後、測定された自我機能を対象にして、その発達過程 (その2) と病態化 (その3) についても研究を展開していく予定であるが、本研究は、その一連の研究の第一段階に該当する。

研究 I

目的

自我機能 (防衛機制は研究 II にて分析) を表す項目を作成するため、本調査に先駆けて項目を試作することを目的とする。

方法

調査対象者

神奈川県内の国立大学に通う学生を対象とした。調査配布数は141部、うち有効回答数は135部 (男性81名・平均年齢19.1才、女性54名・平均年齢18.9才) であった。

調査実施期間

1999年7月5日～15日

調査実施場所

神奈川県内の国立大学

調査方法

大学の授業後、集団配布集団回収形式にて調査を実施した。調査用紙への回答の記入は個別に行った。実施時間は約15分であった。

調査内容

調査用紙は、性別・年齢の記入と自我機能測定の商品から構成された。

自我機能測定の商品は、Bellakらが作成した自我機能尺度（Bellak, Hurvich & Gedian, 1973）の商品をもとに、精神科医療現場及び心理臨床に携わる者4名が追加・修正を加えた商品、計129商品を用いた。

教示として「もっとも当てはまる番号に○をつけてください。深く考えず、思ったとおりに○をつけてください」という文章と例を用意し、その後に質問商品を記載した。評定は「全く当てはまらない」「あまり当てはまらない」「どちらでもない」「かなり当てはまる」「非常に当てはまる」の5件法で求めた。

結果

商品は、「全く当てはまらない」を1点、「あまり当てはまらない」を2点、「どちらでもない」を3点、「かなり当てはまる」を4点、「非常に当てはまる」を5点として得点化し、全129商品について因子分析（主因子解、バリマックス回転）を行った。いずれの因子にも負荷量が低い商品、複数の因子に負荷量が高い商品を除き、因子分析を繰り返した。その結果51商品8因子が抽出された。累積因子寄与率は、44.63%であった。結果を表1に示す。

8つの因子に関して、商品の内容を参考に各因子を検討した。第1因子は「日常生活でミスすることが多い」、「その場にそぐわない行動をしてしまうことがある」等の商品から構成されているため、「判断力」に関する因子と解釈された。第2因子は、「自分が行動しているという気がしない」、「ときどき人にあやつられて動いているような感じがする」等の商品から構成されているため、「現実感」に関する因子と解釈された。第3因子は、「信頼し合っている友人がいる」、「友達とおしゃべりするのが好きだ」等の商品から構成されているため、「対象関係」に関する因子と解釈された。第4因子は、「私は何になりたいのか決まっている」、「どんな職業についていいかわからない」等の商品から構成されているため、「同一性」に関する因子と解釈された。第5因子は、「毎日の生活に充実感がある」、「自分の今の生活に満足している」等の商品から構成されているため、「支配達成感」に関する因子と解釈された。第6因子は、「周りがうるさくても自分のやるべきことはちゃんとできる」、「仕事（勉強）と遊びを両立することができる」等の商品から構成され

ているため、「自律性」に関する因子と解釈された。第7因子は、「実際に起こり得ないことが現実には起こったように思いこみやすい」、「科学的に説明できない経験をしたことがある」等の項目から構成されているため、「空想性」に関する因子と解釈された。第8因子は、「人との言葉に傷つけられやすい」、「他人に皮肉を言われてもあまり感じない」等の項目から構成されているため、「刺激防壁」に関する因子と解釈された。

信頼性検討のために α 係数を算出したところ、第1因子は0.831、第2因子は0.726、第3因子は0.746、第4因子は0.876、第5因子は0.732、第6因子は0.739、第7因子は0.655、第8因子は0.788であり、各因子において高い信頼性が確認できた(表1)。

表1 自我機能項目(51項目)の因子分析結果(主因子法・バリマックス回転)

質問項目/因子		1	2	3	4	5	6	7	8
判断力	日常生活でミスをすることが多い	0.697	0.059	0.051	0.125	0.022	-0.056	0.175	0.155
	その場にそぐわない行動をしてしまうことがある	0.670	0.134	0.071	0.059	-0.101	-0.220	0.207	-0.075
	あわてると、簡単なことでも思い出せなくなる	0.634	0.224	0.092	-0.014	-0.103	-0.020	-0.057	0.132
	緊張すると自分のやるべきことがわからなくなってしまう	0.631	0.243	0.078	-0.024	-0.127	-0.088	-0.008	0.151
	仕事上ときどきミスをして注意を受けることがある	0.595	-0.099	0.052	0.007	0.111	-0.102	-0.115	0.094
	同時に二つの仕事をしようとするど混乱してしまう	0.565	-0.066	0.064	-0.088	0.115	-0.215	-0.187	0.227
	自分に与えられた役割を果たすのが難しい	0.469	0.216	0.193	-0.084	-0.217	-0.117	-0.018	0.138
	たとえ話しがわからなくて困ることがある	0.456	-0.001	-0.137	0.068	-0.089	0.154	0.146	-0.047
	思いがけずに人を怒らせることがよくある	0.455	0.015	-0.026	-0.002	-0.178	-0.206	0.210	-0.192
	相手の言葉の意味を正しく理解できる	-0.419	-0.220	0.061	-0.085	0.210	0.079	0.028	0.091
現実感	自分が行動しているという気がしない	0.151	0.703	-0.017	-0.140	-0.125	-0.049	0.157	-0.016
	誰かに操られているようで自分の意志で行動している気がしない	0.094	0.0684	-0.044	-0.092	-0.258	-0.027	0.017	0.094
	ときどき人にあやつられて動いているような感じがする	0.228	0.683	0.074	-0.045	-0.087	0.034	0.092	0.199
	ときどき自分が自分でない感じにおそわれる	0.161	0.659	-0.225	-0.086	-0.037	0.107	0.201	0.057
	自分の手足が他人のもののような感じられる	-0.020	0.564	0.108	0.034	0.058	-0.121	0.137	-0.006
	集合や会議に出席するのはなるべく避けたい	0.142	0.464	0.268	-0.030	-0.042	-0.273	-0.070	0.060
	中性的な人間にあこがれる	0.002	0.345	0.233	0.033	-0.064	-0.084	0.090	-0.085
対象関係	信頼し合っている友人がいる	-0.105	0.066	-0.731	0.187	0.132	0.007	-0.075	0.044
	自分には、心を打ち明ける友達がない	0.082	0.153	0.654	-0.106	-0.112	0.135	0.055	0.080
	友達とおしゃべりするのが好きだ	-0.034	-0.170	-0.586	0.135	0.237	0.173	-0.064	0.104
	友達といっしょにいるよりも、1人であるほうが落ち着く	0.021	-0.051	0.579	-0.068	0.064	0.022	0.160	0.076
	私の親は自分勝手だ	-0.061	0.153	0.443	0.209	-0.119	-0.278	0.098	-0.087
	私には仲間なんて必要ない	0.019	-0.150	0.432	-0.070	-0.098	0.002	0.269	-0.189
	友達関係はあまり長く続かない	0.381	0.036	0.412	0.010	-0.094	-0.121	-0.078	0.123
	私生活でもきちんとした服装をしている	0.080	-0.299	-0.360	-0.012	0.090	0.252	0.011	-0.102
同一性	私は何になりたいのか決まっている	0.028	-0.034	-0.119	0.920	0.032	0.031	0.005	0.023
	自分のやりたい仕事は決まっている	0.062	-0.051	-0.144	0.880	0.062	0.038	0.050	-0.048
	どんな職業についていいかわからない	-0.039	0.159	0.075	-0.761	-0.036	-0.134	0.047	0.057
	将来の目標に向かって規則正しい生活をしている	0.128	-0.003	-0.118	0.468	0.335	0.186	-0.283	-0.073

支配達成感	毎日の生活に充実感がある	0.047	-0.270	0.026	0.254	0.611	0.054	-0.225	-0.118
	自分の今の生活に満足している	0.080	-0.222	-0.183	0.113	0.582	-0.040	-0.374	-0.159
	努力にふさわしい成果をあげていると思う	-0.119	-0.013	-0.085	0.048	0.542	0.095	-0.139	-0.096
	黙っていても友達の考えていることはよく分かる	-0.148	0.032	-0.183	-0.043	0.448	0.069	0.289	0.048
	自分の考えを言葉でうまく表現できる	-0.237	-0.234	-0.009	-0.001	0.366	0.127	0.220	-0.006
	いろんな人と友達になるのは苦手である	0.316	0.071	0.262	-0.049	-0.361	-0.247	-0.001	-0.029
	冗談を言ってよく仲間を笑わせる	-0.116	0.001	-0.246	0.038	0.360	0.191	0.058	0.022
	相手の身振りや表情から、相手の気持ちがよく理解できる	-0.212	-0.122	-0.152	-0.120	0.349	0.018	0.279	0.074
自律性	周りがうるさくても自分のやるべきことはちゃんとできる	-0.247	-0.022	-0.008	0.199	0.107	0.787	-0.145	-0.093
	周囲が騒がしくても、やるべき仕事（勉強）に集中できる	-0.252	0.088	0.054	0.250	0.135	0.668	-0.026	-0.135
	人に言われなくてもやるべきことはきちんとやれる	-0.035	-0.229	0.027	0.066	0.282	0.425	0.190	0.063
	仕事（勉強）と遊びを両立することができる	-0.200	-0.094	-0.195	0.033	0.242	0.391	0.105	-0.172
	怒りっぽくて他人に当たる	0.087	0.196	0.090	0.115	-0.046	-0.375	0.026	0.122
	周りがうるさいと過敏になったりいらいらしたりする	0.163	-0.007	0.264	-0.160	0.198	-0.369	0.238	0.270
空想性	人には聞こえない音が聞こえたり、人には見えないものが見えたりしたことがある	-0.041	0.111	0.209	-0.092	0.036	-0.061	0.506	0.104
	実際に起こり得ないことが現実起こったように思いこみやすい	0.130	0.113	0.088	0.046	-0.014	-0.083	0.506	-0.079
	科学的に説明できない経験をしたことがある	-0.109	0.081	0.140	0.124	0.048	0.073	0.492	-0.028
	世界が灰色に見えることがある	0.060	0.241	-0.035	-0.009	-0.142	0.100	0.422	0.072
	ぼんやり物思いにふけることがある	0.104	0.244	0.082	0.041	-0.092	-0.124	0.396	0.288
	翌日仕事（学校）があるのに遊んで夜更かしをすることがある	0.188	-0.001	0.022	-0.186	-0.006	-0.022	0.344	0.074
刺激防壁	人の言葉に傷つけられやすい	0.155	0.191	0.036	-0.086	-0.064	-0.019	0.022	0.837
	他人のちょっとした言葉にひどく傷ついてしまう	0.158	0.094	0.080	0.048	0.031	-0.174	0.127	0.765
	他人に皮肉を言われてもあまり感じない	-0.030	0.054	0.162	0.081	0.121	0.107	-0.048	-0.548
二乗和	4.112	3.483	3.123	2.949	2.526	2.465	2.282	2.267	
寄与率	7.908	6.699	6.007	5.672	4.858	4.741	4.388	4.360	
累積寄与率	7.908	14.607	20.614	26.286	31.144	35.885	40.273	44.633	
α 係数	0.831	0.726	0.746	0.876	0.732	0.739	0.655	0.788	

研究 II

目的

研究 I で得られた結果をもとに、自我機能尺度を作成することを目的とした。

方法

調査対象者

神奈川県内の国立大学に通う学生を対象とした。調査配布数は243部、うち有効回答数は計234部（男性：99名・平均年齢21.1歳 女性：129名・21.6歳）であった。

調査期間

1999年10月20日～11月8日

調査実施場所

神奈川県内の国立大学

調査方法

大学の授業の後、集団配布集団回収形式で行われた。調査用紙への回答の記入は個別記入形式であった。実施時間は約20分であった。

調査内容

調査用紙は、性別・年齢の記入と自我機能測定項目、および防衛機制測定項目から構成された。項目の選定は精神医療現場及び心理臨床に携わる者4名によって行われた。

自我機能測定項目は、研究Iにて抽出された因子にそって、それぞれの因子に新たに臨床的に意味があると思われる項目を加えた。項目数は65項目であった。

防衛機制測定項目は、中西(1998)の42項目を参考にした。その上で、分裂、投影、否認、逆転、身体化、自己愛的内向、投影性同一視、抑圧、反動形式、置き換え、合理化、打ち消し、分離、昇華から、それぞれ項目を仮説的に設定した。項目数は、42項目となった。

教示として、「もっとも当てはまる番号に○をつけてください。深く考えず、思ったとおりに○をつけてください」という文章と例を用意し、その後に質問項目を記載した。評定は「全く当てはまらない」、「あまり当てはまらない」、「どちらでもない」、「かなりあてはまる」、「非常にあてはまる」の5件法である。

結果と考察

尺度得点は「全く当てはまらない」を1点、「あまり当てはまらない」を2点、「どちらでもない」を3点、「かなり当てはまる」を4点、「非常に当てはまる」を5点として得点化し、自我機能測定項目は全65項目について、防衛機制測定項目は全42項目について因子分析(主因子解・バリマックス法)を行った。いずれの因子にも負荷量が低い項目、複数の因子に負荷量が高い項目を除き、因子分析を繰り返し行った。

自我機能測定項目については、54項目7因子が抽出された。累積因子寄与率は45.63%であった。結果を表2に示す。

抽出された7つの因子に関して、項目の内容を参考に各因子を検討した。第1因子は「周囲のものが実際に存在している気がしない」などの現実感に関する項目と、「科学的に説明できない経験をしたことがある」など、現実検討に関わる項目から構成されているため、「現実検討・現実感」に関する因子と解釈された。第2因子では、「自分には心を打ち明ける友達がいない」、「私には仲間なんて必要ない」等の項目から構成されているため「対象関係」に関する因子と解釈された。第3因子では、「人の言葉に傷つけられやすい」、「他人のちょっとした言葉にひどく傷ついてしまう」など、外的・内的刺激に対する感受

性や感応域に関わる項目から構成されているため、「刺激障壁」に関する因子と解釈された。第4因子では、「その場にそぐわない行動をしてしまうことがある」、「仕事上、時々ミスをして注意を受けることがある」等、現実場面での判断力や注意に関する項目から構成されているため、「判断力」に関する因子と解釈された。第5因子は「自分のやりたい仕事は決まっている」、「しっかりした考えや生き方が見つからない」等、同一性に関わる項目から構成されているため、「同一性」と解釈された。第6因子は、「毎日の生活に充実感がある」、「今の勉強や仕事に打ち込めない」等、現在の有力感、達成感に関わる項目から構成されているため、「支配-達成」と解釈された。第7因子は、「周囲が騒がしくても、やるべき仕事に集中できる」、「人に言われなくてもやるべきことはきちんとやれる」等、周りに関わりなく、どれだけ自律的に振舞えるかに関する項目から構成されているため、「自律性」に関する因子と解釈された。

Chronbackの α 係数を算出したところ、すべての因子が70を超え、信頼性が確認された(表2)。

表2 自我機能項目の因子分析結果（主因子法・バリマックス回転）

質問項目 / 因子		1	2	3	4	5	6	7
現実検討・現実感	周囲のものが実際に存在している気がしない	0.777	0.130	0.025	0.065	0.016	0.170	0.026
	ときどき自分が自分でない感じにおそわれる	0.710	0.146	0.110	0.123	-0.001	0.196	-0.027
	ときどき人にあやつられて動いているような感じがする	0.704	0.213	0.025	-0.043	0.016	0.248	-0.037
	実際に起こり得ないことが現実起こったように思いこみやすい	0.698	0.083	0.106	0.150	0.005	0.050	0.051
	風景がペールを通してみているようで実感がない	0.631	0.150	0.010	0.112	0.056	0.227	-0.129
	空想と現実のさかいがあいまいになりやすい	0.630	-0.055	0.069	0.275	0.040	0.122	0.008
	自分が行動しているという気がしない	0.583	0.273	0.113	0.144	0.095	0.235	-0.128
	周りが色あせて見える時がある	0.561	0.052	0.135	0.111	-0.002	0.026	-0.008
	人には聞こえない音が聞こえたり、人には見えないものが見えたりしたことがある	0.538	-0.018	-0.076	-0.032	0.069	-0.154	-0.046
	自分の手足が他人のもののように感じられる	0.522	0.225	0.022	0.104	-0.057	0.009	-0.025
	あてつけされている気がする	0.504	0.227	0.226	0.172	0.180	0.154	-0.074
	科学的に説明できない経験をしたことがある	0.376	0.039	-0.057	-0.099	-0.093	-0.179	0.003
対象関係	自分には、心を打ち明ける友達がいない	0.161	0.676	0.043	-0.080	0.177	0.267	-0.104
	私には仲間なんて必要ない	0.326	0.609	-0.105	-0.012	0.145	0.010	-0.052
	友達とおしゃべりするのが好きだ	-0.184	-0.607	0.089	-0.048	-0.073	-0.088	0.026
	信頼しあっている友人がいる	-0.146	-0.593	-0.065	0.100	-0.084	-0.208	0.035
	友達付き合いが負担である	0.288	0.565	0.204	0.255	0.206	0.108	0.003
	いろんな人と友達になるのは苦手である	-0.034	0.562	0.170	0.221	0.107	0.022	-0.073
	友達関係はあまり長く続かない	0.214	0.555	0.140	0.002	0.129	0.205	-0.038
	相手の身振りや表情から、相手の気持ちがよく理解できる	-0.014	-0.451	0.138	0.231	-0.056	-0.040	0.121
	冗談を言ってよく仲間を笑わせる	0.041	-0.435	0.027	0.042	0.012	-0.103	0.061
	友達と一緒にいるよりも、一人でいる方が落ち着く	0.120	0.374	-0.045	0.083	0.002	-0.047	-0.026

刺激防壁	人の言葉に傷つけられやすい	0.179	-0.111	0.755	1.108	0.057	0.104	-0.008
	他人のちょっとした言葉にひどく傷ついてしまう	0.206	0.082	0.689	0.143	0.111	0.041	-0.043
	他人の目が気になることがある	-0.031	-0.075	0.610	0.284	0.038	0.260	-0.050
	他人に皮肉を言われてもあまり感じない	0.043	0.150	-0.520	0.000	-0.017	-0.037	0.062
	人前で緊張しやすい	-0.103	0.103	0.493	0.290	0.014	0.139	-0.167
	周りがうるさいと過敏になったりいらしたりする	0.053	0.089	0.466	-0.001	0.082	-0.024	-0.256
	嫌われている気がすることがある	0.177	0.267	0.464	0.254	0.086	0.190	0.059
	人なかで自分のうわさをされている感じがする	0.242	0.003	0.379	0.284	-0.019	0.195	0.140
判断力	その場にそぐわない行動をしてしまうことがある	0.249	0.095	0.052	0.676	-0.008	0.090	0.030
	仕事上、ときどきミスをして注意を受けることがある	0.020	0.023	0.139	0.676	0.082	0.034	-0.049
	日常生活でミスをする事が多い	0.122	-0.015	0.093	0.563	-0.007	0.167	-0.004
	緊張すると自分のやるべきことがわからなくなってしまう	0.022	0.083	0.383	0.494	0.025	0.092	-0.179
	あわてると、簡単なことでも思い出せなくなる	0.090	0.023	0.343	0.489	-0.057	0.199	-0.177
	同時に二つの仕事をしようとする混乱してしまう	0.113	0.090	0.241	0.472	0.074	-0.007	-0.377
	例え話しわからなくて困ることがある	0.228	0.146	0.056	0.420	0.016	0.039	-0.157
同一性	自分のやりたい仕事は決まっている	-0.027	-0.152	0.000	-0.012	-0.386	-0.037	0.148
	将来何になりたいのか決まっている	-0.032	-0.161	0.000	0.044	-0.365	-0.159	0.082
	どんな職業についていいかわからない	0.127	0.139	0.137	0.142	0.775	0.249	-0.042
	しっかりした考えや生き方が見つけられない	0.051	0.201	0.244	0.123	0.548	0.296	-0.103
支配達成感	毎日の生活に充実感がある	-0.069	-0.273	0.080	-0.062	-0.296	-0.591	0.150
	今の勉強や仕事に打ちこめない	0.239	0.145	0.113	0.213	0.200	0.591	-0.193
	毎日何をしたらいいかわからずぼんやり過ごす日が多い	0.242	0.204	0.134	0.186	0.091	0.548	-0.192
	周りに流されてなんとなく生きている	0.105	0.102	0.141	0.182	0.190	0.512	-0.141
	自分の今の生活に満足している	-0.113	-0.208	-0.158	-0.038	-0.211	-0.455	0.079
	努力にふさわしい成果をあげていると思う	-0.072	-0.103	-0.142	-0.103	-0.265	-0.385	0.228
自分の考えを言葉でうまく表現できる	-0.026	-0.182	-0.189	-0.193	0.057	-0.241	0.193	
自律性	周囲が騒がしくても、やるべき仕事に集中できる	0.081	-0.032	-0.302	0.005	0.017	-0.086	0.730
	周りがうるさくても自分のやるべきことはきちんとやれる	0.016	-0.184	-0.185	-0.057	-0.070	-0.250	0.685
	人に言われなくてもやるべきことはきちんとやれる	-0.101	-0.077	0.033	-0.257	-0.153	-0.200	0.473
	遊びたくともがまんして勉強や仕事をする事ができる	-0.173	-0.112	0.161	-0.097	-0.174	-0.157	0.395
	仕事と遊びを両立することができる	-0.069	-0.075	-0.161	-0.280	-0.269	-0.206	0.383
二乗和	5.385	3.906	3.517	3.209	3.105	2.833	2.228	
寄与率	10.159	7.370	6.636	6.055	5.859	5.346	4.203	
累積寄与率	1.159	17.529	24.165	30.220	36.079	41.425	45.628	
α 係数	0.884	0.824	0.802	0.797	0.894	0.797	0.723	

防衛機制測定の商品42項目について因子分析（主因子解，バリマックス回転）を行った結果，27項目5因子が抽出された．累積因子寄与率は，35.96%であった．結果を表3に示す．

5つの因子に関して、項目の内容を参考に各因子を検討した。第1因子は「自分は人に嫌われていると感じることが多い」、「自分はひがみやすい性質である」等、投影として仮説的に設定した項目や、分裂、投影性同一視として仮説的に設定した項目から主に構成されているため、「原始的防衛」に関する因子と解釈された。第2因子は「悩みがあると、頭や腹が痛くなりやすい」、「嫌なことがあると、不眠、食欲不振、めまい、発熱が起きやすい」等、身体化として仮説的に設定した項目から主に構成されているため、「ヒステリーの防衛」に関する因子と解釈された。第3因子は「しばしば趣味やスポーツに熱中する」、「手芸、工芸、絵、音楽等、打ち込めるものを持っている」等、昇華として仮説的に設定した項目から構成されているため、「健康な防衛」に関する因子と解釈された。第4因子は「表情が乏しいと人からよく言われる」、「自分は感情の表現が乏しい方だと思う」等、分離として仮説的に設定した項目から構成されているため、「分離を中心とした防衛」に関する因子と解釈された。第5因子は「どんな人にも親切だと人から言われる」、「誰かとケンカした後、相手に優しくする」等、反動形成として仮説的に設定した項目から主に構成されているため、「反動形成を中心とした防衛」に関する因子と解釈された。

信頼性検討のために α 係数を算出したところ、第1因子は0.799、第2因子は0.701、第3因子は0.686、第4因子は0.679、第5因子は0.492であった。

表3 防衛機制（42項目）の因子分析結果（主因子法・バリマックス回転）

質問項目 / 因子		1	2	3	4	5
原始的防衛	自分は人に嫌われていると感じることが多い	0.662	0.191	-0.191	0.127	-0.005
	自分はひがみやすい性質である	0.624	0.140	-0.008	-0.004	0.062
	自分はのけ者にされていると感じることが多い	0.609	0.158	-0.235	0.150	-0.029
	時によって残酷になったり優しくなったりする	0.544	0.026	0.139	0.104	-0.106
	相手に裏切られるような気がして、何度も相手の気持ちを確かめなくなる	0.530	0.158	0.044	0.002	0.238
	好きな相手に冷たくされると相手がにくらしくなる	0.474	-0.063	-0.103	0.014	-0.038
	腹が立つと、壁をたたいたり、物にあたったりする	0.443	0.164	0.068	0.079	0.059
	失敗をしても何か言い訳を見つける	0.415	0.093	-0.038	0.081	-0.025
	自分の中に2つの傾向があってまともでない	0.412	0.231	-0.113	0.172	0.069
	外で嫌なことがあると、家族にやつあたりする	0.394	0.171	-0.090	-0.120	-0.053
誰かの悪口を言った後で、今度はその人をしまりに褒めることがよくある	0.368	0.150	-0.136	-0.042	0.253	
理屈っぽいと人から言われる	0.338	-0.032	0.128	0.212	-0.058	
ヒステリーの防衛	悩みがあると、頭や腹が痛くなりやすい	0.102	0.746	-0.167	0.024	-0.019
	嫌なことがあると、不眠、食欲不振、めまい、発熱が起きやすい	0.062	0.722	-0.124	0.041	-0.066
	緊張すると、下痢したりトイレが近くなったりする	0.183	0.466	-0.131	0.119	0.046
	嫌なことがあると、部屋に閉じこもり、1人になりたくなる	0.226	0.411	0.068	0.173	-0.050
	怖い夢をいつまでもおぼえていて、何度も思い出す	0.281	0.406	0.173	-0.012	0.013
健康な防衛	しばしば趣味やスポーツに熱中する	-0.011	-0.101	0.717	-0.053	0.099
	手芸、工芸、絵、音楽等、打ち込めるものを持っている	-0.106	0.004	0.673	-0.135	-0.002
	不快なことがあると仕事やスポーツで発散する	-0.070	-0.152	0.538	-0.019	0.292

反動形成を中心とした防衛	表情が乏しいと人からよく言われる	0.164	0.125	-0.175	0.806	0.003
	自分が感情の表現が乏しい方だと思う	0.134	0.055	-0.275	0.627	-0.038
	どこかさめていると人からよく言われる	0.091	0.168	0.114	0.498	-0.226
分離を中心として防衛	どんな人にも親切だと人から言われる	0.003	-0.116	0.084	-0.049	0.544
	自分は我慢強いほうである	-0.235	-0.122	0.084	0.210	0.482
	誰かとケンカした後、相手に優しくする	0.020	0.050	0.060	-0.061	0.431
	寂しくなると誰かに優しくしたくなる	0.152	0.067	0.029	-0.165	0.395
二乗和		4.434	1.874	1.271	1.140	0.989
寄与率		16.424	6.941	4.706	4.224	3.663
累積寄与率		16.424	23.365	28.072	32.295	35.958
α 係数		0.799	0.701	0.686	0.679	0.492

終わりに

本研究では、自我機能と個々の防衛機制の両方を同時に測定する尺度の作成を目的として、Bellakの理論に日本の臨床的な経験によって得られた知見を加えて独自に項目を作成し、調査を行った。調査回収後、統計的な分析を加えた結果、臨床的に意味のある因子が見出され、新たな自我機能尺度として開発された。今後、まずは標準化を行い、更に対象を拡げて、発達差（その2）と病態（その3）についての研究を展開していく予定である。臨床現場で、多忙なスタッフの間で迅速に活用される自我機能の測定尺度として世に問うていきたい。

参考文献

- Bellak, L., Hurvich, M. & Gediman, H. 1973 Ego Functions in Schizophrenics, Neurotics, Normals. New York: Wiley.
- Bellak, L. & Loed, L. (Eds.) 1969 The Schizophrenic Syndrome. New York: Wiley Bond, M., Gardner, S. T., Christian, J., & Sigal, J, 1983 Empirical study of self-rated defense styles Archives of General Psychiatry, 40, 333-338.
- Bond, M. 1986 Bond's Defense Style Questionnaire (1984 Version). In G. E. Vaillant (Ed.) Empirical study of ego mechanisms of defense, Washington DC: American Psychiatric Press 146-152
- 中西公一郎 1998 The Defense Style Questionnaire 日本語版 (DSQ42) - 日本での防衛機制研究のために - 慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要第47号, 27-33
- 中西信男・古市祐一 1981 自我機能に関する心理学的研究 - 自我機能調査票の開発 - 大阪大学人間科学部紀要第7巻, 189-220

(平成12年11月2日受理)